

アンケート集計結果

■ アンケート回収数

67枚（170名の参加者のうち）

うち、文化財保存修復学会会員 12枚

うち、愛知県博物館協会加盟館員 2枚（上記と重なる）

※ 以下()内は後援団体(文化財保存修復学会・愛知県博物館協会)会員の数および、ご意見です。

■ お住まい：

a 愛知県内	46人 (2人)
b その他	21人 (10人)
山形	7人
東京	(2人)
岐阜	1人
京都	8人 (7人)
奈良	2人 (1人)
無記名	1人

■ シンポジウムに参加された動機は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|-----------|
| a 美術館の活動に興味があった | 27人 (6人) |
| b 木村定三コレクションに興味があった | 22人 (4人) |
| c 愛染明王像に興味があった | 11人 (1人) |
| d 美術作品の修復に興味があった | 54人 (11人) |
| e その他 | |
| ・ 作品にまつわる話がきけると思った為。 | |
| ・ 友の会、会員だから | |
| ・ 研修旅行の一環として | |

■ シンポジウムはいかがでしたか。

- | | |
|---|--|
| a 満足 | 54人 (12人) |
| ・ 公立美術館の評価、第2位、もっともっと努力を。頑張ってください。 | |
| ・ 私は修復に関心や興味があるので、このようにお話を聞くことができ、良かったです。ですが、話が難しかったです。 | |
| b 不満足 →その理由： | |
| 趣旨が | ・ よくわからない 1人 |
| | ・ 重要でない 1人 |
| 内容が | ・ よくわからない 1人 |
| | ・ 専門用語が話の中心だったが、いまいち、よくわからなかった。 |
| | ・ 重要でない 1人 |
| その他 | ・ 専門的で難しかった。素人向けではなかった。 |
| | ・ 修理方針を報告するだけで、それに対する討論をしているようには見られなかった。 |

■ 美術館は、どのような役割を持つものだと思いますか。以前からお考えだったものには○、シンポジウム後に新たに加わったものがあれば□をおつけください。(複数回答可)

a 展覧会や講演会などの企画を行い、美術鑑賞の場を提供する

○ (もともと考えていた) 57人 (11人)

□ (新たに知った) 1人

b 美術について未知のことを研究し、その成果を発表する

○ (もともと考えていた) 37人 (9人)

□ (新たに知った) 12人

c 美術作品とその記録をまもり、将来に伝える

○ (もともと考えていた) 50人 (12人)

□ (新たに知った) 10人

d その他

○ (もともと考えていた) (1人)

□ (新たに知った) 5人 (1人)

- ・ 作品の説明会 (背景、作者の意図等)、修復技能の講義、実技講習
- ・ 美術に携わる人材の育成や、その地域における美術文化の促進を促す役割も面白いかもしれない。
- ・ 美術館の活動について理解を求める。
- ・ 美術品のバックグラウンドの説明が必要なこと
- ・ 全部、大事だと思います。
- ・ (私は学校でなく、家族の中で文化財の存在を知り、修理され今日まで伝わっていることを知り、修理現場に居ます。若い人たちが興味を持てる環境作りができればと思います。)
- ・ (美術作品を通して、文化を伝え、国民の財産である事の意識を高める役割)
- ・ (美術作品の保存と、それに対する活動を一般に伝える)

■ 今回のような、美術館のいわば裏方の活動を取り上げた企画について、どう思われますか。

a あまり必要だとは思わない 0人

b たまには、こういう企画があってもよい 12人 (2人)

c もっと積極的に行うべき 46人 (10人)

- ・ 作品の説明 (意義) もして欲しかった。
- ・ 収蔵品の多量化、conservator の地位向上

■ シンポジウムについてのご感想やご意見、美術館へのご希望などをお書きください。

また、シンポジウムでご紹介したような美術館の裏方の活動について、美術館はどのように自己評価をし、外部に成果を示すことができるでしょうか。ご示唆があればお聞かせください。

- ・ 修復の前と後を並べて掲示する (百聞は一見にしかず)、何をしたのか、説明文などを付して。(外部への成果の部分に→)
- ・ 県民のレベル (教養、文化的興味) を上げないと理解されにくいかも。客足の数 (自己評価に→)
- ・ 金銭的に苦しいなら、ボランティアにかかわる人数を増やすべく、修復技術を教えてゆく事業をすれば、文化、美術への興味や理解が得られ、さらにボランティアによるコスト削減につながると思う。さらに他に類の無い美術先進県として、他へ先進的事例を示すことで注目を集められ、より文化活動が活発になる。事例、見学ツアー事業もできるようになると思う。
- ・ 分かりやすかったので、村田さんのお話を最後に聞いたかった。
- ・ 話の内容は理解できるが、なぜそれが必要か、重要かなどがインパクトをもって迫ってこなかった。修復の苦労はわかったのですが、へーそなんだというインパクトに欠けていて残念。今回の愛染明王像のどこがすごくてどこが特徴なのか、伝わってきません。シンポジウムでの発言の方がおもしろかったです。
- ・ 主な作品の調査修復状況を HP で紹介して欲しい。

- ・美術館はいつも同じ美術品を展示しておれば自然と入場者は減少していくと思います。かといって美術品を購入したり借用するには予算的な限界があると思います。それには今、現に所有する美術品とか他の美術館での事でも、その内容、具体的に分かるようにすれば、美術館の利用方法も当然変化してくると思いますが。
- ・知りたいと思っていた裏の仕事が少しづつわかってきました。今日はもう一步深く知ることが出来た気がします。一つの仕事の途中を知ることも、仕事の中身とか価値が一層わかったと思います。大変な事でしょうが、また開催して頂ける事を願っています。
- ・日常の研究成果があれば随時発表して頂きたい。また、他の美術館（例えば徳川美術館）とは収蔵内容の相違があるのかもしれませんが、1回/1月、通年の講座等の検討を考えて頂きたい。
- ・今日のような催しを小さい単位で頻繁に行って欲しい。また、展示室で作品の前で行っても良いと思う。
- ・内容の大変充実した講演でした。美術館のこうした部分について話していかれるのは、とても有意義なことだと思いました。感動いたしました。
- ・このような内容のシンポジウムを継続的に開催し、徐々に深めていくことを行って欲しい。1度に盛り込むよりも継続的に。
- ・通常、得ることのできない情報を得られる貴重な機会であると思う。このような修復の過程での情報や発見を企画展として構成するのも発表手段として面白いと思う。
- ・修復作業やそれに伴ってわかってきたこと（絵具の材料、表装、その方法、他の時代との比較による、この作品の位置、あるいは意味など）は、多いと思われます。それを修復が完了してから、研究書として本にして下されば、多くの人に見ていただけるでしょう。また、本日の公開討論における問題点が、修復作業の中の一部として（過程として）意味あるものとなるかと思えます。
- ・美術館の役割について広く伝えて理解を求めることができるので、とてもよい活動だと思った。今後、現場見学を取り入れたり、実物を見たりと、より具体的な活動も加わるといいと思った。
- ・欧米では、子供や一般市民の学習の場で、多くの人々が模写をしたり、学芸員の指導を受けていました。今後ともよく開かれた存在にして下さい。
- ・初めてシンポジウムというものに参加しました。一つのテーマを違う分野からの目で見ることができ、それを聞くことができたことをうれしく思います。今後も興味深いシンポジウムを期待しています。
- ・美術館の活動を外に知らせることより、多くの人がその価値に気づくことができる活動内容や美術館の「意志」を、より広く伝えてもらいたい。
- ・「裏方の活動」の企画展
- ・今まで知らなかった美術館の活動などを知ることができ、とても勉強になりました。実際に今、修復をしてらっしゃる先生方のお話を聞くことができる機会はあまりないので、とても良いシンポジウムだったと思います。とても有意義でした。ありがとうございました。
- ・日本画について何も知らなかったので勉強になった。美術館は作品だけでなく技法などについて、初歩から級別？に教える、教育的な面も期待します。小、中、高では、まったく教えてもらってないことでした。小学生が大学の講義を聞かされたような気分。
- ・公開討論がとても良かったと思います。修復方針を決定する際の検討要素など、興味深かったです。またこのような企画があれば、是非参加したいと思います。展覧会など作品を公開する時に、美術史的な解説だけでなく、修復の状況についても触れるべきだと思います。例えば、その部分が後補であるかという情報は必要だと考えます。これがないと鑑賞者は誤解することがあると思います。このようなことから、もっと修復に関心がでると思うし、保存の意識も上がると思います。
- ・修復方針を決定する過程を公表する試みはこれまでにないものであり、意義深いと思う。修復にはカネも時間もかかるということ、広く訴えていくことで、美術館が社会の中で占める地位が上がり、予算上の処置がなされることを期待したい。
- ・美術品の保護について詳しく分かりました。維持保存には時間と費用がかかることも知れました。寄贈するにも修復に大

変ですね。私も寺へ屏風を寄贈しましたが、表装、表具屋さんに、修復してもらってから寄贈しました。

- ・知らないことをもっと多くお知らせ下さい。今回はしっかり満足しました。前部は少しつらかったが、後部はワクワクしました。ありがとうございました。
- ・岩永先生のお話がとてもわかりやすかったです。そしてすごく興味を持ってました。修復、そのもっと前、作品がどのようになっているか（作られているか）話して下さい、勉強になりました。
- ・常設展の展示、もう少し、所蔵品の入れ替え、ひんばんにできないか。
- ・勉強になりました。また宜しくお願いします。(特に木村さんを存じ上げてましたので、深い感慨を覚えました)
- ・入館者としては、悪い点は指摘する人もいるが、良いことはほめることまではしないで、満足しているだけで黙っているという傾向がある。評価と言っても難しい。評価は気にしないで、良さそうだ、サービスになると思ったことは、積極的に実施して行って頂きたい。本日のような企画、また期待しています。
- ・歴史を持っている作品を、後世にのこしてゆく現場を垣間見させていただきました。ひとつの作品のたくさんの経歴、本来の役割、人の手から手へという伝世、いろいろな面をのぞかせて頂きました。今後、美術品として以外にも、文化財としての価値の面を思いながら作品を観賞してゆきます。保存、伝承に力を注いでいる方々に、敬意と拍手を送る思いでいっぱいです。
- ・他の分野の作品の修復についても、このようなシンポジウムを！
- ・裏方の仕事は地道なものだけでも、こういったシンポジウムでその内容を外部に発信するのは、普段のこれらの活動を、美術館側が見直す機会にもなりうるし、一般の私たちが美術館の役割を認識・考察する重要なきっかけになるので、とても意味のあることだと思う。定期的に行うのがいいと思う。
- ・(裏で活動をする一人として、このような内容を公開されることはすばらしいと思った。保存に対する哲学的発想も学べたと思う。)
- ・(私は名古屋出身の人間であるのですが、名古屋在住の人がどれだけ参加されていたかは判りません。ですが、経済で元気である土地であるので、文化面にも大きな関心を持って頂き、個々が、企業が、文化財などの理解を深め、未来へと続くことを切に思う)
- ・(全体に良い公開シンポジウムだったと思う。今までに無く面白かった)
- ・(1点の作品について、いろいろな方向性から見た講演は、大変興味深く、良かったと思います。今後もこのような企画があるとおもしろいと思う)
- ・(画期的な企画だったと思います。自己評価という点はさておき、美術館の裏方の活動を公開することは、知ってもらうこと自体が、現段階では評価されるべきことと思います。今後、どう展開するのかについては、自らと重ねても、難しいものですが。)
- ・(「博物館の裏の仕事」と名打たれていましたが、今回のような内容は、一般の人の目に触れにくいだけに、このような機会を通じて、表へと開いて行って欲しいと思います)
- ・(今日のようなシンポジウムを開かれた貴館の努力に対し、敬意を表します。今後とも、このような機会を持たれますようお願いいたします。修理報告については、「なぜ修理は必要か」「修理に対する根本的な考え」などなど、もっと整理してわかりやすくまとめ、話をして頂けたら良かったと思います。)
- ・(例でイコンの修理について、→歴史資料的修理とは、絵画としての修理とは、その差は大変、興味があります)
- ・(一般の人へ収納方法、保管方法、ケアのアドバイス)
- ・(作品の修理のための調査段階での発表でしたが、修理後の報告も是非行って頂きたいと思います。また、仏画以外の木村コレクションの保存についてのお話も聞く機会があればと思います。)

■ シンポジウムの進行方法や運営に関する意見

- ・講演時にすべての灯りを消されると、メモが取れなくなるので、少し灯りを残しておいて欲しかったです。
- ・最後の挨拶が長い。
- ・時間が極端に押すのは困る。移動、宿泊の関係で時間がずれると、いろいろ焦るので、集中できなくなる。